



公益社団法人 日本山岳会

宮崎支部報

第82号



【第3回九州5支部集会・第14回山の安全を祈る集い】 8月5・6日(土・日)

令和5年8月5日(土)～6日(日)、「第3回九州五支部集会」及び「第14回山の安全を祈る集い」が、公益社団法人日本山岳会東九州支部主催で、九州で一番標高の高い温泉「法華院温泉山荘」において開催された。新型コロナウイルスの関係で、6年ぶりの5支部集会であり、約60名が一堂に会した。

なお、今回は特別ゲスト・講師として、松田宏也本部長(千葉支部長)にも出席いただいた。

当日は、午前6時15分、栗林淳子会員の車に同乗させてもらい、4名で九重を目指し宮崎市を出発。途中、都農道の駅、宇目ドライブインで休憩を取り、三重町経由で「ぐるっとくじゅう周遊道路」を反時計回りで進み、予定通り午前10時15分、約4時間で、飯田高原ドライブインに到着。各支部の方も数十名集合されており、一通り挨拶を済ませた後、約10台の車で吉部登山口を目指し、大船林道経由で最終の駐車場に午前11時15分頃到着。そこから緑の高木に包まれた穏やか山道を暫く進むと、空が開きそこからはそよ風にそよぐ坊がつのススキの緑の草原歩きとなり、とても気持ち良いウォーキングとなった。

昼食を法華院温泉山荘の手前の「あせび小屋」でとった。九重の自然の美しさを謳った「坊がつの讃歌」の原曲は、この山小屋で3人の九州大学の学生が広島高等師範学校(現広島大学)山岳部第一歌「山男の歌」をベースに作ったものである。

日高 研二

【5支部集会(懇談会)】

集会(懇談会)は、法華院温泉山荘2階の大部屋で行われた。初めに、東九州支部安東支部長から今回集会開催に至るこれまでの経緯等含めての開会挨拶があり、その後、各支部から活動状況等の報告、全体討議を行った後、記念講演に移り、加藤英彦東九州支部前支部長から演題:「山の安全を祈る集い」昭和5年の遭難から現在まで、また、松田宏也日本山岳会理事から演題:「生きて還って、また登る」～ミニヤコンカ生還から41年の歩み～でそれぞれ貴重な講演を頂いた。

各支部報告・全体討議を通して、各支部が抱える共通課題等を確認し、いづらかでも解決のヒントは得られたのではと思う。

集会終了後、山荘1階食堂に場所を移し、懇親会が開催された。各支部からのお酒の寄贈もあり、会話も弾み賑やかな雰囲気の中、進行。各支部から今年開催予定の宮崎ウェストン祭についての問い合わせなどあり、当日の出席についてお願いしておいた。1次会・2次会での仕切りで行われたが、午後8時30分終了。午後9時15分就寝。

【第14回山の安全を祈る集い】

昭和5年8月11日、久住山御池周辺で二人の21歳の若者が低体温症で亡くなられた。九重山では初めての遭難事故であり、これまで遭難現地において慰霊の行事が行われてきている。

当初予定では現地慰霊碑において開催することとしていたが、天候悪化のため、山荘2階の大部屋に変更して午前8時から開催された。九重山法華院白水寺の弘蔵岳久院主が慰霊法要を行われ、各支部長も焼香。最後に「坊がつる讃歌」を9番まで全員で歌い、記念撮影をして午前8時30分終了した。

帰路は、長者原ビジターセンターに寄り、タデ原湿原を散策。夏の花ヒゴタイ、ハンカイソウ、ユウスゲなど鑑賞し、牧ノ戸峠・高千穂町経由で午後5時宮崎市着。

<参加者4名>栗林淳子・橋口三枝子・荒武八起・日高研二



雨のため山荘で慰霊法要がしめやかに行われた



ハンカイソウ



ヒゴタイ

[5月定例山行-1]白鳥山

雨の中 民宿「焼畑」まで(1日目)

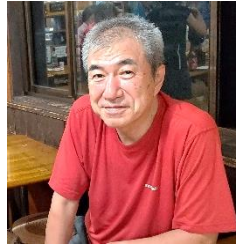
白鳥山は五家荘山域で最も南に位置する奥深い熊本県との県境の山である。椎葉の中心街からさらに1時間の民宿「焼畑」を目指す。ヤマダ電機を9時出発、宮崎から8名2台に分乗して美郷町～諸塚～椎葉を経由。あいにくの小雨の出発となる。しかし山並みは雲が流れ美しく見え回復の兆しか？1日目は民宿まで観光を楽しみながら。美郷町のおせりの滝は、駐車場から朱色のゴムチップの道を5分ほど歩いた新緑の中に、段違いの3段の滝が見える。更にその上に第2、第3展望台があり、ここから見る滝はまっすぐ伸びた滝に見え一段と素晴らしい。そして下からは見えなかった5段、6段と滝があることが分かりおせりの滝の新しい発見だった。

諸塚での昼食は「なばかつ定食」これは椎茸を揚げたもので椎茸とは思えない食感でとても美味しかった。この後、椎葉の民族芸能博物館の見学、秘境村椎葉の行事や信仰、芸能が四季を通して紹介してあり時間をかけて

<5日コース>宮崎市6:15発～国道10号・門川ic・北川ic・宇目ドライブイン・三重町・ぐるっとくじゅう周遊道路(反時計回り)～飯田高原ドライブイン10:15着～吉部登山道入口(大船林道経由)～最終駐車場11:15着～坊がつる～11:45あせび小屋(昼食)～12:45法華院温泉山荘着

◎5支部集会(各支部報告・全体討議13:30～15:45～記念講演会 16:00～18:15) ◎懇親会18:40～20:30

<6日コース> 8:00山の安全を祈る集い～8:30終了。法華院温泉山荘発9:30～10:15長者原ビジターセンター散策11:45発～牧ノ戸峠・高千穂町経由～宮崎市17:00着



「ミニヤコンカ軌跡の生還」
講演 松田裕也氏
日本山岳会理事長(兼)
千葉支部長



あせび小屋前にて



盛り上がった懇親会

5月13日(土)～14日(日)

橋口 三枝子

見たい所だ。この先は、曲がりくねった細い道となり離合も慎重に。回復かと思った雨は本降りとなっていた。16:30民宿「焼畑」に着く。私には懐かしく思い出の場所である。13年前、山岳会に入会した時の初めての山行「新人歓迎登山」がここ「焼畑」での参加で、不安や緊張しながらも楽しかった記憶がよみがえる。当時86歳だった名物おばあちゃんクニ子さんは99歳になられ今も施設でお元気に過ごされているとのこと。今回はあの時もお世話になった息子さんご夫婦が暖かく迎えてくれた。薪で沸かしたというお風呂にゆっくり入り、山菜料理に舌鼓、なかでも時間をかけ炭火で焼いたヤマメは骨ごと食べる美味しさだった。ご主人(勝さん)も加わりよもやま話に盛り上がり有意義な宴会となった。外は雨が降り続いていた。

ヤマシヤクヤク満開の白鳥山(2日目)

2日目は青空に恵まれ絶好の登山日和となる。9時に別の旅館に宿泊していた日向の会員4名も民宿「焼畑」に合流する。20分程で峰越登山口だ。5分程急登の

後ははなだらかなアップダウンで、スズタケやバイケイソウの間を歩く。若草色、ウグイス色の新緑が眩しい。岩を抱いて伸びる大木があちこちに見事な風景を醸しだしている。1時間ほど歩くとお目当てのヤマシャクヤクの群生地が始まる。「立てばシャクヤク座ればボタン・・・」と言われるほどの美しい花だ。花卉の中の雄しべに付いている黄色も綺麗。薄くピンクに染めたのも一輪見る事ができた。御池の方へとコースをとる。ここで足を痛めている二人の会員は無理をせず引き返すことになり荒武会員が同行する。「しらとり風穴」では覗くと大きな口を開けた岩は迫力満点。その付近にもヤマシャクヤクの群生地。ニリンソウもひっそりと咲いている。急坂を登り山頂に12:00、展望はないが広々とした雑木の中、民宿で作っていただいた弁当は竹の皮のお弁当箱、そしておにぎりのなんと美味しかったこと。

下りは「平家残党平清経住居跡」の標柱を見ながら行くと石灰岩の散在するドリーネ地帯で神秘的だ。そこにもヤマシャクヤクが一面に咲いている。倒木には雨に打たれた苔が緑にかがやき美しい。小鳥のさえずりを聞きながら九州最奥の脊梁を歩き平家落人伝説を偲び感慨深い。別行動となっていた3人と登山口近くの展望台で元気に合流する。



民宿「焼畑」勝さんも加わり焼酎もうまい

14:00峰越登山口に着く。帰路に向山神社(白鳥神社)に樹齢500年といわれる見事な杉の巨木を見る。ヤマダ電機駐車場に19:00着。

今回の山旅では長距離と山間部の曲がりくねった狭い道を運転していただいた日高会員、川越会員、平田会員に感謝したい。素晴らしい思い出の山行となった二日間だった。

追記: 民宿「焼畑」を訪れた38日後、新聞記事で椎葉クニ子さんの訃報を知ることになりました。お元気だと聞いていただけに驚きと淋しさでいっぱいです。心よりお悔やみ申し上げます。

〈参加者名12名〉服部澄子・橋口三枝子・竹田裕見子・蔵屋とよ・風間恭子・前原満之・荒武八起・日高研二・服部岩男・平田五男・川越政則・会員外1名

〈コースタイム〉5/13日 ヤマダ電機駐車場9:00～東郷道の駅11:00～おせりの滝11:35/12:00～諸塚しいたけの館12:25(昼食)/13:10～椎葉博物館14:30/15:30～民宿焼畑16:30
5/14日 民宿焼畑9:00～峰越登山口9:35/9:45～最初の群生地10:55～御池11:35～白鳥山頂12:00/12:40～ドリーネ地帯13:00～峰越登山口14:00/14:25～白鳥神社14:45/15:10～東郷道の駅17:40～ヤマダ電機駐車場19:00



ヤマシャクヤクに囲まれて

椎葉白鳥山にて

荒武 八起

源氏の追討軍が椎葉山中に迫っているという情報を聞いた平家残党の男達は、山中のあちこちから白鳥山に集結し対応策を交わした。その折、見張りの者が「麓は源氏の白旗で埋め尽くされている」と伝えてきた。「相手は多勢、我々は無勢。もはやこれまで、潔く死のう」ということになった。自決する者、互いに差し違える者、辺りは血の海になった。しかし、時が経っても源氏は攻め上がって来なかった。霧が晴れると遙か麓には山ザクラやコブシが今を盛りに白い花を咲かせていた(新山芳彦著「椎葉の歴史物語」から抜粋)。

白鳥山のこの一帯は平坦ともいえるなだらかな尾根が続く。平清経の住居跡という標柱があり、近くには小さな池塘もある。今は御池というが以前は身池とよんだそう。100名もの尊い命が散ったとの言い伝えが残る白

鳥山。訪れた5月末にはヤマシャクヤクの可憐な白い花が辺り一面に咲いていた。少し感傷的になった山旅であった。そこで恥ずかしながら拙歌を・・・

苔むせる岩の挟間にはほっこりと
ヤマシャクヤクの白き妖精

本々の間を抜け来る風にシャクヤクは
白き花房たおやかに揺らす

自決せし平家落人弔うか
ヤマシャクヤクの白き燈明

100を超す平家落人果つという
白鳥山に盛衰しのぶ

触れたれば花びらはらはら落としゆく
ヤマシャクヤクはたれの化身か

【大谷セツ子会員追悼】

セツちゃんへ

永峯麗子

思い掛け無いセツちゃんの訃報に今、かぎりない寂寥感のなかにいます。私が若い頃教師として勤務した鹿児島県吐噶喇列島中之島にセツちゃん、ウメちゃんの三人で行った日の様々の事がありありと思い出されます。

東経129度55分、北緯29度51分、島の周囲31.80km東シナ海に浮かぶ小さな今も火をふいている活火山の島です。1等3角点・標高979m御岳に登ったりガジュマルの木に鳴くアカヒゲの声を聞きながら山の道に熟れるバナナを食べながら島の中をめぐりました。かつての私の生徒の経営する民宿に滞在した1週間ばかり楽しそうに嬉しそうにしていたセツちゃんの顔が目に見えます。日本が高度成長期として湧いたあの頃、地方の中卒の子ども達は金の玉子として迎えられました。今その子達も定年退職の頃となり大阪方面からフェリーで細島に下り私をまた或る時はセツちゃんとウメちゃんを誘ってくれたのです。すでにその島に両親はいませんが私が親のようだと言って島に連れて行ってくれるのです。

山が好きでその山の縁で出合ったセツちゃんでしたが飯田線に乗りたいたと言えば駒ヶ根まで電車で行き駒ヶ岳に行ってから霧ヶ峰など歩いて帰宮しましたね。北アルプス表銀座も縦走して合戦小屋名物のスイカも食べました。中房温泉の噴気口で野菜等も焼いて食べました。

セツちゃん たくさんの山の思い出をありがとう。もうセツちゃんに会えないのだと思うと悲しいです。



大谷 セツ子さん追悼

谷口 敏子

お節ちゃん! 突然の訃報に呆然と言葉もなく、ただ涙にくれ立ちすくみました。私達夫婦共々、山岳会入会当初から兄弟姉妹のように可愛がっていただき、本当に身内のような付き合いでした。一緒に登り、語り、飲み、食べ、歌った日々が昨日のように蘇ります。私の宮崎百山も貴女なしでは登れませんでした。「下りの女王」と言われた貴女にやっと付いていったものです。貴女と最後に登ったのは、貴女の80歳の記念山行「北穂高」でした。木村さんも一緒でしたね。80歳とは思えないしっかりした足取りでしたが、下りに膝を痛み、徳澤園から時々肩を組んで歩きましたね。それが貴女とは最後の山旅でした。84歳で両膝の手術・リハビリと見事に回復され日常生活も一人で立派にこなしていましたね。たった一人のお姉さんを見送って僅か数か月、優さんやお姉さんのもとの貴女まで旅立っていくとは……もうすこしいっぱい語りたかった!! 悔いばかりが残ります。待っていた優さんにいっぱい甘えてください。ご冥福をお祈りいたします。



- ・わが姉とも母とも思ひし君なるよ
永遠(とわ)の旅路にいで行きたまふ
- ・リビングも台所も汚れひとつ煮き
日々の暮らしにいつも学びき
- ・わが縫ひし 記念バジスタペストリー
登山山のぎっしりとあり
- ・優氏の行きつけ居酒屋「古澤」に
支部報語り終ひとなりたり
- ・野良「クロ」をわが子のように愛しみ
後のこと案じ語りてゐしよ
- ・呼び鈴も押さず「お節ちゃん」と訪ひゆきし
日々は戻らず君逝きたまふ



大谷セツ子様へ

清家 順子

私が大谷様夫妻にお会いしたのは登山教室NHKでした。脱サラ夫の仕事補佐で忙しく自分の楽しみを考える余裕などありませんでした。そんな時同級の谷口ウメさんが誘って下さり登山教室の会員になり大谷ご夫妻にご指導頂きました。清水さんや友達5人と生き返ったようにせっせと色々な山に挑戦しました。此の事が私の人生を元気に楽しく過ごせた大切な原動力です。恐れ多くも日本山岳会会員にも登録させて頂きました。沢山の優しいお友達も出来ました。すべてが大谷様ご夫妻のおかげです。

今、NHKで牧野富太郎さんの朝ドラが楽しみです。沢山の花が出てきます。その中で私が一番感動の花キレンゲショウマが有ります。扇山で見たときこんな花が山に有るのか・・・と嬉しい出会いでした。大谷さんに登山教室皆勤賞とこの花の額を頂き今も大切に机の上です。落ち込みそうなときは、山は逃げないよ、又チャンスは有るよ！に励まされました。沢山の登山の中、季節の花、鳥の声、美しい川や滝、悩みなど飛んで行きましたね。雨も又良し！ずぶぬれ登山も有りました。ブナの木を伝わる大雨の迫りに感動しました。頂上でワインの乾杯も懐かしいですが今はダメ。山菜を取り公民館で大きな鍋で食べた御馳走も忘れません。北海道ずぶぬれの登山テントの中で食事を作ったことなど懐かしく思います。

優さま亡くなられ19年経ちました。その後はセツ子様一人で立派な生涯でした。何時も私達を見守り、何度も病に倒れ起き上られ90歳立派なご一生でした。

8月10日セツ子様会いに行きました。昔話に楽しい時間を過ごさせていただき嬉しく思います。優さまの残されたエベレストの写真集が本部に遺されることになりとても喜んでいらしゃったことは何よりの喜びです。天国で優さまに会え積る話も沢山でしょう。

私達会員は大谷ご夫妻のご指導に感謝し安全な山歩きを心掛けたいと思います。

有難うございました。ご冥福をお祈りいたします。



ご厚情に感謝

荒武 八起

お別れがこんなに早く突然に来るとは思いもよらない事でした。7月末に訪問した時はお元気でしたし、8月10日の優氏の命日に電話をいただいた折は家内とかなり長く語っておられました。それから何日も経たないのに・・・。

大谷夫妻には公私とも実によくのご指導ご助言を賜りました。何か月にも及んだ「みやざき百山」の編集作業、そして支部役員会議など様々な打ち合わせは殆ど大谷邸で行われました。その日の作業が一段落すると毎回の様にセツ子氏の手料理をいただきながら宴会となりました。セツ子氏は、やんちゃで多少わがままな優氏をしっかりと受け止め、いつ拝見しても仲良く生き活きとしておられました。

私的にも多くのお世話になりましたが、中でも愚息の仲人をお引き受けいただいたことは誠に有り難い事でした。初孫は大谷さんが飼っておられた黒色の猫が大好きでした。その猫の名前は「ゴン太」だったのでしょうか、孫はその猫が好きだったらしく「ゴン太のおじちゃんところに連れてって」とせがむ程でした。その孫も早や大学院生、その後3名が続いています。

優氏が他界されてから19年間、家を守りながらの一人での生活は大変だったことと思いますが、家は綺麗に保たれ、いつお会いしても身だしなみはしっかりとされておられました。優氏が保護士として更生保護に尽力されたと同様、セツ子氏は民生委員として地域住民の福祉活動に寄与されました。このようなお二人の生き方に心より敬意を表するものであります。

セツ子さん、ご主人とはもう会われましたか。19年間の思い出をゆっくりお話し下さい。そしてそちらの山々をお二人楽しんで下さいね。これまでのご厚情誠に誠に有難うございました。



いつも笑顔の素敵なセツ子さんでした

[5月定例山行-2] 高千穂峰 5月28日(日)

いざ霊山高千穂峰へ

吉田直人

高千穂峰へは前年の同月に訪れたが、生憎の雨と強風で、馬ノ背のかなり手前で断念して引き返してしまった。この度は濃霧と風の中、難儀しながらでもようやく山頂にたどり着き、無事に下山できた。霊山は自分に向き合えるよう仕向けてくれる。喜ばしいことである。

高千穂河原から登りはじめた。古宮跡を経て石畳をさっそうと歩き、いつのまにか赤ザレとなり、難渋してくる。次第に雲が近くなり大きな岩が出現する。その日はガレ場の急登から御鉢火口壁までが一番の難所となった。あたりは密度の濃い霧が立ち込めてきて、衣類もかなり水分を吸い、強風は視野を狭くして、体温を下げた。ふと下方より、法螺貝の音が風に吹き上げられて耳に届いてきた。荒業に身を置く山伏だ。一行が背門丘(せたお)の霧島岑神社で休憩していると、飛ぶように歩いて来たのだろう。気がつくとも一行のすぐそばに立っていた。御鉢を見るのも楽しみだったが、それは叶わなかった。御鉢の底より噴き上げる風は身体の邪気を追い払うという。御鉢の底には何も無い。よい功德だった。道中霧の中、いく人も登山客に先を越され、いく人も登山客とすれちがった。皆、五里霧中なのか。山頂にも多くの人があった。深い霧の中だった。

てっぺんの逆斜から一時の休息を許された後、慎重に山をおりた。悪条件に変化はない。ところがザレ場を下っていた時に一瞬間、叢雲が消え去り、日が射した。中岳など近隣の雄大な山々が姿を現した。これは先ほどの山伏の神通力にちがいない。ここを去るに忍びないものがあった。

石畳の遊歩道にもどり、北の森林地帯に分け入ってゆるく歩くと、鹿ヶ原に赴ける。なぜかここはミヤマキリシマの大群生地となっている。時期の美しさはこの上ない。極楽浄土と人はいふ。一行はつつがなく、達成感のもとに下山完了した。さらば霊山また向き合う日まで、次回はさらなる功德を積んでおく。

(参加者22名) 服部澄子・橋口三枝子・竹田裕見子・蔵屋とよ・白賀智子・風間恭子・石田三枝子・甲斐洋子・吉田直人・日高研二・武田芳雄・服部岩男・平田五男・会員外2名
鹿ヶ原散策: 清家順子・多田登美子・荒武八起・多田周廣・櫻木勉・川越政則・会員外1名

(コースタイム) 大淀川河川敷ゴルフ場7:00～道の駅ゆーばるのじり7:40～高千穂河原ビジターセンター8:45/9:00～霧島岑神社10:50～高千穂峰山頂11:25/12:00～古宮跡13:50～鹿ヶ原14:15～高千穂河原ビジターセンター15:00～大淀川河川敷ゴルフ場17:20

初夏の霧 仰ぐ山塊 高千穂峰
霊剣の皐月の地異を鎮めおる
修験者の法力備わる五月尽
高千穂河原 五月の風に 摩耗する
軌跡あり富太郎翁の深山霧島



高千穂峰山頂は霧の中

[6月定例山行] 丹助岳 6月25日(日)

蔵屋 とよ

6月の山行は前回の烏帽子岳が大雨で中止となったため、更に期待して当日を迎えた。梅雨の晴れ間の好天とはいかなかったが、薄曇りで暑すぎることなく午前7時、7名が2台の車に分乗してヤマダ電機を出発。途中、日向からの6名と合流。登山口までの細い山道の要所所に見やすい標識が設置されおぼほ予定通り9時30分、矢筈登山口駐車場に到着する。

小雨がぱらつく中で登山準備をすすめ、前日雨天だったことも考慮し山行リーダーの判断で安全策をとり丹助岳のみの計画に変更する。

丹助岳は、その隣にある矢筈岳と網の瀬川を挟んで

そびえ立つ比叡山とともに祖母・傾国定公園特別地域に指定されている。

10時5分、矢筈登山口駐車場を出発、歩き始めから整備された丸太の階段が続き100段ほど登ると長椅子で一息付く。そこから同様の短い階段を何度か挟み、歩きやすい登山道が続いた。約1時間で丹助岳キャンプ場の山小屋に到着する。しばらく休憩して山小屋の脇にある丹助岳登山口から出発。ここからは徐々に岩場も現われ、ロープや小幹にすがりながらまずまずの急登を上がると天狗岩の標識が目にとまる。目の前には直登できる梯子場があり、回り込むと約10メートルのほぼ垂直の岩

壁にロープが下がっている。数名、ロープを掴み絶壁登りのシュミレーションをして、絶壁を横目に左側へ大回りで安全策をとる。

12時、丹助岳頂上到着。薄曇りだが遠く阿蘇の根子岳や高岳まで見渡せた。南に矢筈岳、比叡山の展望は見事だ。周囲の山を眺めながら昼食をとり、12時45分以下山開始。途中、石舞台のような巨岩あり、また山道には高木から舞い落ちたヒメシャラの白い花びらや伸びた蔓の黄色い花、ミヤマコナスビが咲きほこり癒される。急な下りで滑らないよう躓かないよう気を張り下山の間も飽きることがない。30分足らずでキャンプ場と神社の分岐に着く。東に少し下ると伊佐賀大明神に到着。



崖下の洞穴のような場所に小さな祠が祀られている。山名の由来になっている『丹助どん』との関わりがあるらしい。祠に手を合わせて分岐点に戻り、13時30分山小屋着、水分補給して14時30分矢筈岳駐車場に到着。

標高差100メートルほどの登山でバラエティーに富んだ楽しい山行となった。

(参加者13名)栗林淳子・橋口三枝子・竹田裕見子・風間恭子・蔵屋とよ・荒武八起・吉田直人・日高研二・武田芳雄・平田五男・会員外3名

(コースタイム)ヤマダ電機駐車場7:00～よっちみろ屋9:00/9:35～矢筈登山口9:45/10:05～丹助小屋11:05/11:25～岩、ロープクライム11:50～丹助岳山頂12:00/12:45～伊佐賀大明神祠13:10～丹助小屋13:40～矢筈登山口14:30～ヤマダ電機駐車場17:00



山頂より阿蘇方面を望む

[7月定例山行] 猪八重溪谷 7月23日(日)

四宮 林三

猪八重(いのほえ)溪谷は苔の宝庫として知られ、清流に沿って北郷森林セラピー基地を代表するウォーキングコースが整備されている。今年3月に清武南から日南北郷まで東九州自動車道が開通し身近に楽しめるようになった。駐車場からウッドチップの道を歩きはじめ、入林記帳所から山道に入る。川沿いに進んでゆくと昭和40年ごろまで使われていたという小規模な水力発電所の水タンクや井堰の跡、木材搬出のためのトロッコの軌道跡、炭窯跡などが見られた。特徴的なシダ、スジヒトツバ群落を過ぎると1号橋への登りになる。これから7本の橋を渡るがどれも川面から高い場所に架かっているのでアップダウンを繰り返す。梅雨明けが待ち望まれる曇り空だったが溪谷のイメージとは異なり暑さに汗だくとなる。たまの小さな谷間からの涼風にほっとし、どうやってこの場所にとする巨石群が見える河原や滝壺の河原で小休止しながら歩く。

途中で足を滑らせながら必死に崖を登ろうとしている“うりぼう”に出会った。皆で頑張れとエールを送りながら見守り、なんとか乗り越えて藪に消えた時には思わず良かったと拍手した。片道3キロの道のりに3箇所ベンチの下に箱があり、簡易担架が保管されていた。シイやタブ、イギリ、マルバウツギ等主だった木には名札がつけてあり木々を見上げ確認しながら歩く。シュスランにも出会えたが、300種あるという苔は素人には到底判別は難し

い。以前はもっと森がしっとりとしてコケも元気だったような気がする。機会があれば餌肥にある世界で唯一のコケ専門研究所である服部植物研究所を訪ねてみたいと思った。

自然を満喫しながら2時間半程かけて目的地の五重の滝に到着、昼食をとり帰路についた。



(参加者18名)清家順子・多田登美子・服部澄子・栗林淳子・橋口三枝子・蔵屋とよ・白賀智子・前原満之・荒武八起・吉田直人・武田芳雄・多田周廣・服部岩男・四宮林三・川越政則・福島龍好・荒武達郎・会員外 1名

(コースタイム) 清武ナフコ駐車場8:00～(清武南インターから)北郷学園小中学校横駐車場8:30～猪八重溪谷駐車場8:50/9:10～1号橋10:10～流会滝11:15～五重の滝11:35/12:30～猪八重溪谷駐車場14:00～清武ナフコ駐車場15:00

救急法講習会に参加して 6月17日(土)

日高研二

宮崎県山岳・スポーツライミング連盟から救急法講習会の開催案内があり、6月17日(土)の午前9時から正午まで、双石山丸野駐車場入り口付近にある鏡洲公民館(鏡洲研修センター)で、山行委員長の武田会員と二人受講した。講習会は参加者男女半々の約20名で、各自それぞれ三角巾や登山靴、そして登山靴を履いて足が入る大きさのレジ袋を用意して参加した。今回の講習は、身近な山での登山中の事故(ケガ)を想定したものであり、日本赤十字社宮崎県支部の指導員による、三角巾の取り扱い方法や緊急搬送法の実技を主体とするものであったが、参加者男女混合で、それぞれが被害者と救急対応者になって実施された。アキレス腱を痛めた場合の三角巾の手当の仕方(靴は脱がずに足首をそ

のままテーピング)、太腿を痛めた場合の手当の仕方や三つのザックを使い、ストックで固定し繫いで搬送具を仕立て、それに事故者を載せて5~6人で搬送する方法など、講師・参加者一緒になって、みんな汗だくになりながら取り組んだ。事故を起こさないことがまず何より肝心なことであるが、登山中の事故はいつどこでどうして発生するかわからない。万が一、発生した場合、いかにスムーズに的確に対応できるかが重要であり、今回の講習会は大変有意義であった。

当支部の月例開催の登山研究会や定例山行においても、事故の予防など含めて、座学・実地の講習等を行い、事故のない安全・安心な登山の確保に努めていきたい。 <参加者>日高研二・武田芳雄



【自然保護委員会】 双石山小谷登山口育林作業 7月15日(土)

前原満之

小谷登山口の育林作業(令和2年3月植樹)に、宮崎市山岳協会の加盟団体としての参加である。朝8時集合、現地は宮崎市内と違い雨模様かと思われたが、やがて陽が差し、暑い中での作業となった。私は登山道脇から奥に入り植栽木や自生木の周りを手入れし、高さの低い樹木に目印の竹を立てたり、アラカシなどの自生木の枝先にピンクのテープを付けていった。自生木も結構あるが、やはり苗木の補植の必要性を感じる。作業中、蜂に刺された人もおり、山岳会として、ポイズンリムーバー等救命箱の整備の必要性を感じた(今までは水源の森づくりの救急箱を持参していた)。

翌日、椿山での催しがあり、その帰りに小谷登山道に寄り、ひととおり全体を見てみた。一ヶ所、パイオニアツ

リ(先駆性樹種)のカラスザンショウ、アカメガシワなどが随分大きくなり群生しているところがある。そこはそのままにしておいてもいいかと思うが、全体的にもう少し奥まで手入れができるといい。しかし、なかなかの作業である。

参加者の感想も聞いたのでその一部を列記する。▼守っていききたいキバナノホトギスが切られてしまわないよう、目印の竹を立てた。▼自分で植えた苗木が育っているのを見つけると嬉しい。▼ヤマボウシが登山道脇に連続して植栽されている。その成長を見守るのが楽しみ。▼今年はヤマアジサイが沢山咲いた模様。

作業は2時間ほどで終了、登山口に整備されている水場で汗を拭き、帰路についた。皆さんご苦労様でした。



【グループ山行】高千穂峰(霧島東神社コース) 5月20日(土)

荒武 八起

霧島東神社からのコースは、幾つかある高千穂の峰への道の中で最も長くきつい。敢えてこのコースを選んだ理由は、本部の古道調査プロジェクトの諸氏が一週間後にこのコースを歩くと聞いたからである。そこで登山道の現況などを事前に調べて報告することを目的に出かけた。武田会員の車で現地に着き、まず霧島東神社にお参りした。早朝ということもあり、参拝者は殆どなく森閑とした清々しい中で手を合わせる事ができた。標高400m位にある登山口は、九州自然歩道として良く整備されている。朝露を含んだ草と低木の道に沿って黄イチゴがあちこちで熟していた。それを口にしながら快適にスタートした。しかし、樹林帯に入ると状況は一変。ヤマビルがヒョロヒョロと頭を持ち上げて待ち構えていた。ヤマビルの生息数は直径1mの円形(3平方メートル)内に1匹、1~10匹、10匹以上の3段階で評価するらしいが、ここは10匹をはるかに超えている。ヒルに追われるように長い急登をあえぎながら登った。最大限に注意したつもりであったが、結果的には参加者3名ともやられた。

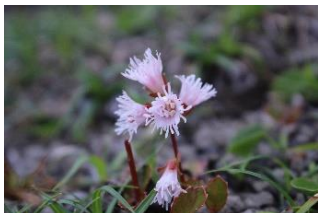
稜線に出るとヒルもおらず二つ石で昼食をとった。昼食後の稜線歩きは、今を盛りに咲き誇るミヤマキリシマに癒されながら快適であった。頂上で写真を撮り多田会員の待つ高千穂河原目指して下った。多田会員は、霧島古道に関する情報収集に奔走されていた。14時くらいに降りてくるという計画であったが、16時になってしまった。長時間待っていただいた多田会員には申し訳ない思いであった。

このコースは何回か歩いたが、最も記憶に残るのは高校山岳部の夏山合宿である。一日目は高原駅から歩いて御池でキャンプした。二日目はここから高千穂峰・高千穂河原・中岳・新燃岳・獅子戸岳・韓国岳を縦走し、えびの高原でキャンプした。三日目はえびの高原からの車道を生駒高原に下り小林駅まで歩いた。5名パーティでの行軍であったが、テントなどを入れた皆のキスリングは30キロ近い重さであった。こうした度重なる鍛錬の成果か、体力・知力・チーム力を競う念願のインターハイに出場できた。あの頃の山岳部メンバーは今どうしているだろうか。古き良き友をなつかしむ山旅であった。それにしてもあの頃の体力はどこに行ってしまったのだろうか。高千穂河原までさえ、やっとの思いで辿り着く今。

後日談:帰宅後、登山道の状況等を本部の古道調査プロジェクトへヤマビルが多いことなどを含めて報告した。一週間後の28日、5月の定例山行・高千穂峰登山の日、高千穂河原で休憩しているところに、下山してこられた本部の古道調査プロジェクトのメンバーとお会いすることができた。記念写真を撮り立ち話程度で別れたが、とても良い思い出になった。

<参加者4名> 登山組:橋口三枝子・荒武八起・武田芳雄
資料収集:多田周廣

<コースタイム> 宮崎発7:00~霧島東神社8:00/8:30~登山口8:40~中間点10:50~二つ石12:30/13:00~夢ヶ丘分岐13:25~山頂14:35/14:45~高千穂河原16:00



コイワカガミ



マイズルソウ

エッセイ 思い出の山「夢に終わった雲の平」

田村 充子

現在、全然山に行けていない。今回、今までに登った山で、思い出深い山の事を書いてほしいと編集部から話があった。そこで選んだのが、登ることを諦めた山「雲の平」。「日本山岳会宮崎支部創立25周年記念グループ山行」で「雲の平コース」と「槍ヶ岳コース」の二つのコースが計画された。槍ヶ岳には行った事があったので、雲の平コースに行くことにした。それぞれに、行き先を決めてからも合同で霧島山や双石山で訓練をした。雲の平と言うのは、周りの野口五郎岳や水晶岳・赤牛岳等が聳え立つ中にある。北アルプスの「奥の院」と言われる日本庭園の様な広い大地に木道が続き、360度の景色を堪能しながら散策できる素敵な場所であると、本を見て、楽しみに臨んだ。「雲の平」には、11名が参加した。

初日、中部国際空港で槍ヶ岳コース(9名)と別れ、マイクロバスで富山県にある亀谷温泉の「白樺ハイツ」に到着した。2日目:マイクロバスで雲の平の登山口である折立に行き、太郎平小屋に向かって登山を開始した。樹林帯の中をゴゼンタチバナの赤い実に縁取られた道をしばらく登る。樹林帯を抜けると小道や石畳が続き、薬師岳の雄大な姿を眺めながら進む。竜胆が咲き、ブルーベリーの中のクロマメノキが紫の実を付けていた。その実を取って食べたが、おいしかった。小さな峰を過ぎると太郎平小屋が見えてきた。五光岩ベンチを過ぎて太郎平小屋(2,325m)に到着した。

夕食前に全員集まり、ビールを飲みながら雲の平の事を語り、ますます登りたいと言う思いを募らせていた。ところが夕食後のTVの気象情報で、台風が北アルプスを直撃すると言う。予定通り登山を続ければ山小屋での足止めはもちろんの事、強風・川の増水など、最悪の状態となることは、目に見えている。全員で何度も協議した結果、明朝、折立に引き返すことにした。中止と決めた後も諦めるのにしばらく時間がかかった。私達が諦めきれないでいる間に、谷口さん達が、宮崎交通と連絡を取り、山を降りてからのスケジュールを立てて下さった。

そのおかげで、その後の旅がスムーズに進んだ。3日目:折立に向かって出発した。まだ、天気は良く折立から登ってくる人々に次々に出会う。複雑な気持ちがあった。折立に到着し、マイクロバスに乗った。30分もしない内に雨が降り出した。やっと諦めがついた。能登半島方面の観光のため、和倉温泉を目指した。4日目:輪島の朝市、道の両側に並んだ色々な店を見て回った。白米千枚田は、海に面した斜面にあり、展望台からの眺めは素晴しかった。それから、コキリコ会館を訪れ、その後、加賀片山津温泉に向かった。最上級のホテルでずらりと並んだ仲居さん達の歓迎を受け記憶に残る最高の旅館であった。宮交の坂元さんの見事な計画に感謝。台風は福井県に上陸し、しばらくして熱帯低気圧に変わった。

5日目:東尋坊を訪ねた。海蝕でできた断崖絶壁で柱状節理からなり絶景だった。続いて五箇山の合掌作りの民家を見て回った。小切子の踊りを見た後、小切子の鳴らし方を教えて貰った。翌日は登山ができそうなので、「西穂高岳独標」に登ることにして、新穂高温泉の「ホテル穂高」に向かった。6日目:台風一過の素晴らしい天気の中、新穂高温泉駅からロープウェイで西穂高口駅まで行き西穂高岳独標(2,701m)に登った。そこからの景色は、遠くに富士山、右側の谷に上高地のホテルや梓川、後ろに焼岳や乗鞍岳、さらに左側に笠ヶ岳が大きく見えた。やっと登山ができたという思いだった。ロープウェイで新穂高温泉まで行き「ホテル穂高」に帰着いた。

最終日:マイクロバスで飛騨高山の朝市に寄り、小京都といわれる高山の街を散策した。それから、中部国際空港から宮崎空港に帰ってきた。いつかは「雲の平」と言う思いで今まで来たが、いまだに実現していない。もうここまで来たら、夢に終わった「雲の平」になってしまった。



五光岩ベンチにて一休み



太郎兵衛平にて 後ろは薬師岳

宮崎の自然 ギボウシ(Hosta)について

石井久夫

ギボウシは分類上ユリ科ギボウシ属に位置する植物で、東南アジア特産で約20種と多く変化に富み栽培がやさしいことからよく庭などに植えられる。昼咲く一日花で芽立はよく山菜として食用にされ淡白でうまい。

ギボウシ属は日本では種類が多く伸びかけた花茎の先端の形が寺院の欄干などの飾りの擬宝珠に似ているのでこの名がついた。新葉はてんぷらや味噌汁の実にするとおいしく、干した葉柄が保存食として用いられている。春の開きははじめた新芽が有毒なバイケイソウに似ていることからバイケイソウをギボウシとまちがえて食べて食中毒をおこすことがある。

一般的に谷沿いの岩場や草原、湿原に自生する多年草で根系での栄養繁殖、種子からもよく育つ。ギボウシ属の花は花被片が基部から途中まで合着し花の基部が細く先にいくにしたがってふくらんで細く広くなる。蜜腺は基部にあり細筒部が長いので口吻の長いマルハナバチが訪花する。一日花で赤紫や青紫、白色の清楚な花が順に咲き根性する葉の緑に映え陽かげで育つので観賞用に栽培され特に欧米で人気が高い。種間で広く交雑するので多くの品種がつけられて自生種は分布域が限られている。

日本に分布するのはコバギボウシ、オオバギボウシ、イワギボウシが主で宮崎では次の三種が基準標本産地としてヒュウガギボウシは花が白く九月に咲く、双石山が基準標本産地に指定され紫色で八月に咲くのはコバギボウシで山地草原の湿地に自生する。又希産地として川南、高鍋湿原にしかないミズギボウシ、祖母山の特産種で基準標本産地でもあるウバダケギボウシがある。

ヒュウガギボウシは日向にあるギボウシの意で宮崎の中部から日南地方にかけて山の湿った崖にぶらさがるように着生している、十月なかば他のギボウシが咲き終

わったあとに茎をのぼしてその上に白い花を咲かせる。花は昼にひらいて夜はしばむ一日花である。

ギボウシは日本で生まれたその親からいろいろな種類の子供が生まれたものと考えられヒュウガギボウシは宮崎という暖かでおだやかな自然の中で生まれた。四百年も前から栽培されたくさんの品種ができたが筒状に咲く花も可愛くて花のない時期では葉もきれいである。

コバギボウシは陽あたりの良い湿地に生える多年草で根系は横にはう、葉の長さは10~20cm表面の脈はへこみ基部は葉柄にそって流れる。高さ30~60cm花茎を出し淡紫色の花を下または横向きにひらく。花期は7~8月湿地に生育しえびの高原の湿地にはよく咲いている。

オオバギボウシは山地の草原や丘陵地に生育する多年草で葉は根生卵円形で長さ30~40cm巾10~15cmと大きい。先は短くとがり基部は心形50~100cmの花茎を根生葉の間から出し長い総状花序をつけ根生葉の間から長い花序より淡紫色または白色の花を多数つけて開く花は筒状鐘形で先は6裂する。花期は7~8月で九州、四国、本州、北海道に生育している。

ギボウシ属は産地が限られる種が多くて変異も大きい。地域個体群の保全が大切で乱獲により絶滅危惧種や危惧種となっている種や地域個体群がふえている。植物多様性上考えなければならぬ現状があり貴重な種が生育する宮崎はその意味で重要な地域と考える。



コバギボウシ
Hosta albo-marginata

古道調査(飢肥街道)経過報告 8月19日(土)

橋口三枝子

飢肥城から清武までの飢肥街道の中で外れているゆかりの地を写真に収めに行ってきた。大手門通りの歴史資料館・小村寿太郎生誕の地を回り横馬場通りを歩く。小村寿太郎も学んだ振徳堂・飛ヶ峯から山道を上がり詰めた所に中ノ尾供養碑がある。内之田石地藏の近くにあると思われる首洗い井戸組石は探すのに難儀したが幸い地元の人々の協力で草の生い茂る中に発見。

大藤の板碑も資料のそれらしき所に行き、地元の人に尋ねるがなかなか知る人がいない。そんな中お墓参りに

来たご夫婦が詳しい人に聞いてくれ、そのうえ、案内までしてもらった。その先も地元の方の説明を受け無事発見する。とても自分たちでは探せなかつただろう。今回の調査は仕事の手を止めて協力していただいた地元の方の優しさに触れ、ありがたく感謝するばかりの一日だった。最後に清武城跡に行く。今は草が生い茂る中に石碑があり、周りだけでもと草を刈り写真に収めて今回の調査を終えた。

<参加者>荒武八起・川越政則・橋口三枝子

[事務局だより]

支部行事予定表(9月～12月)

月 日	行事名	備 考
9月7日(木)	286回定例登山研究会	宮崎市中央公民館
9月9日(土)	定例山行 南阿蘇外輪山俵山	ヤマダ電機駐車場6時出発
9月23-24(土・日)	全国支部懇談会(群馬支部主催)	記念登山谷川岳(21日登22日谷川岳)
10月5日(木)	287回定例登山研究会	宮崎市中央公民館
10月7日(土)	定例山行 矢岳(高原町)	大淀川ゴルフ場河川敷
10月14日(土)	塩鶴、小谷登山道整備(草払い)	宮崎市山岳協会主催
10月22日(日)	定例山行 高房山	宮崎市高岡町
11月2日(木)	288回定例登山研究会	宮崎市中央公民館
11月3-4日(金・土)	宮崎ウェストン祭・記念登山祖母山周辺	ヤマダ電機駐車場
11月23日(木) 祝日	山の日イベント(8月11日分)	宮崎市山岳協会主催
12月7日(木)	289回定例登山研究会	宮崎市中央公民館
12月9日(土)	清掃登山(双石山周辺)・支部懇親会	登山前清掃活動(宮崎市山岳協会主催)

支部会務報告(5月～8月)

月 日	事業・行事	開催場所	人員	備 考
5月11日(木)	282回定例登山研究会	宮崎市中央公民館	13	
5月13日-14日(土・日)	定例山行 白鳥山	椎葉村(民宿焼畑泊)	10	
6月1日(木)	283回定例登山研究会	宮崎市中央公民館	14	
6月25日(日)	定例山行 丹助岳	日之影町	13	
7月6日(木)	284回定例登山研究会	宮崎市中央公民館	12	
7月15日(土)	小谷登山道下草払い	双石山登山道	約35	宮崎市山岳協会主催
7月23日(日)	猪八重溪谷散策	日南市	18	
8月3日(木)	285回定例登山研究会	宮崎市中央公民館	14	
8月5-6日(土・日)	九州5支部集会	法華院温泉	4	東九州支部主催
8月27日(日)	定例山行大浪池	霧島町	7	

投稿のお願い山行に関するものはもとより、随筆・詩・短歌・俳句など何でも結構ですので皆様の積極的な投稿を何卒よろしくお願ひします。また支部報に関するご意見などありましたら編集委員会へ忌憚なくお寄せください。

カラーページのご案内 配布します本支部報は、経費節減のため白黒印刷ですが、日本山岳会ホームページの宮崎支部を開きますと全カラーで閲覧できますので是非ご覧ください。

編集後記

大谷セツ子様のご冥福をお祈りし支部発足からこれまでに大切に見守ってこられたご厚情に感謝申し上げます。

迷走台風、線状降水帯、突風、今迄余り経験したことのない猛暑の中で、自然環境の大きな変化に気付かされ、その早さに驚いている。水のほとんど無い枯れた様な小さな山の中の谷川を思うと、山を巡る環境は、真っ先に壊れると思ってしまう。そんな中、この4ヶ月、月例山行はほぼ予定通り実行された。山行委員により山研の折、目的地、日程の変更、行動手段等様々な報告がある。彼等の安全な山行の為の行動には、敬意を抱く。2回も登山口迄行き、大雨になって中止になった難攻不落?の烏帽子岳はセツ子さんのお勧めと聞く、是非、少しでも歩いてみたい。(多田)

公益社団法人 日本山岳会宮崎支部報 82号
発行責任者：日高 研二

編集委員：橋口三枝子(編集委員長)、荒武八起、
谷口敏子、多田登美子、栗林淳子、蔵屋とよ
事務局：橋口三枝子

〒880-0930 宮崎市花山手東3丁目11-6

Tel, Fax 0985-51-4179, 090-7450-6406

E-mail: hashimie2713@gmail.com

口座：郵貯銀行記号17310番号16269811

名義人：(社)日本山岳会宮崎支部